

内なる対話～「意味ある世間話」となるや、否や?!～

堂本 彰夫

⑫ 改めて、国（家）というものを、どのように考えていけばよいのか?!

I：ということで、最近（⑧～⑩）は（も?）、かなり舌足らずのものではありますが、要は、この間のウクライナの惨劇や中国の独裁体制化への動き、そして、一方では、沖縄と日本（本土）における選挙動向等を見ていて、改めて、「国（家）というものを、どのように考えていけばよいのか?」、そういうことを考えさせられたということですが、Dさん、その辺りについてはどうですか?!

D：直接的には、ある国（家）が、ある国（家）を、同胞を救うためにということで、軍事力を使って侵攻している（その領土を変えようとしている）?!あるいは、危険な基地の移設（除去）を巡って、国（政府）と地方（県）が真っ向から対立している（国（政府）の意向を、一方的に押し付けているように見える?）?!そういう中で、「国（家）」（政府自体ではない!）とは何なのか?そのあり方とはどうあればよいのか?そういうことを、改めて、我々に考えさせている?そういうことですよ?!

I：もちろん、そういうことですが、新型コロナウイルスによる世界的混乱、地球温暖化への全地球的対応、そういうことに関わる協力の必要、すなわち、あらゆることを超えた協力体制の構築、これが、全世界の喫緊の課題であるにも拘わらず、戦争（内紛を含む）とか、侵略（ましてや、それに逆行するような、極めて深刻な危険（核戦争?）も出来している?!）、あるいは国と県との、果てしない対立をしている場合ではないはずなのですが、実際は、そのようにはなっていない?!

D：本当に、これからどうなっていくのか?ということですが、一応、現在、全世界的に、（選挙における）「多数決と少数意見の尊重」ということで、「近代民主主義」が確立されているとは言えるのですが、それがうまく回っていない?そこに、いわゆる「覇権」あるいは「正邪」をめぐる、主権国家あるいは勢力の分断、二極化が進んでいる?人間（社会）の知恵として、幾多の経験（苦しみや悲しみ?）を経ながらここまでやってきたはずなのに、やはり不幸な対立が生まれている?!

I：ある意味では、それは、そうでしか、自ら（民族/国/地域）の主張や帰属意識が満たされない?!つまり、他方の勢力や集団（民族/国/地域）が、常にイニシアティブ（利益や富）を有するようなくみとなっている?!しかも、それが、多数決という手段で保障されている?!だから、いつまでたっても、自分達の主張や利益につながらない?!少なくとも、その意識（感覚）は拭われない?!だから、反発する!あるいは、その枠組みから逸脱しようとする（ある意味自然である?）?!

D：構図としては、もちろんそうなのでしょうが、問題は、約束事を守らない、一方的に壊す（暴力や威嚇によって正当化しようとする!）人間（リーダー）や集団（国）が、あるきっかけがあれば（ここがミソである?）、一定数?出てくるということです!だから、「国連」や「裁判所」というような、その協議力や調整力によって、そのリスクを回避しようとするわけですが、そもそもそれが、ある一線を越えると、その力が無力化する（そこに、国連の解体・再編の契機も存在している?!）?!

I：まさに、最終的な、最大の意見・利害の調整機能がなければ、世界（地球）は滅ぶ（人類の滅亡?!）ということなのですよ?以前は、自由主義（資本主義）対共産（社会）主義というような言い方もありましたが、単純に言えば、個人対集団（社会）、集団（社会/国）対集団（社会/国）の関係ということになりますが、それが、実際には幾重にも重なっている（まさに、県境/国境を越えて!）?!

D：しかも、そこに、民族・宗教・政治体制、そして、そこにある歴史的経緯（怨嗟や苦悩を伴った?）が絡まってくる?!だから、それらが、協力・調整の足枷となる?!さらには、DX化によって、より一層複雑化する（「多様性 Diversity」の無秩序化?強いて言えば、「雑居ビルの存在?」）?!これが、以前にも触れた、「統一性」と「多様性」の永遠の問題（ジレンマ?）であるが、これを、人類（or それぞれの国民）は、改めて、どのように克服していくのか?!そういうことでしょうか?！（つづく）